弥生時代プリント

名前

問1　佐賀県の吉野ヶ里遺跡などの墳丘墓から出土する「細形銅剣」をはじめとした青銅器の性格について述べた文として、歴史的な事実と合致するものはどれですか。（2021年 佐賀公立入試 類似）

1. 鉄器に比べて硬度が高かったため、土木工事の道具として普及した
2. 弥生時代を通じて、一貫して実戦での殺傷能力を追求した武器であった
3. 富や権力を象徴し、村々のまとまりを強めるための儀式や祭りに用いられた
4. 調理や食事を円滑に進めるために開発された、一般庶民の日常の生活用具であった

問2　弥生時代に作られた銅鐸（どうたく）の表面には、梯子がかけられ、床が地面から高く持ち上げられた建築物の様子が描かれています。この建物が、主に収穫した米を蓄えるために用いられた名称として正しいものはどれですか。（2018年 山形県公立入試 類似）

1. 高床倉庫
2. 竪穴住居
3. 平地建物
4. 石舞台

問3　3世紀頃の倭国において、邪馬台国を中心に30ほどの国々をまとめ、中国の魏から「親魏倭王」の称号や金印を授けられた人物は誰ですか。（2020年 埼玉県公立入試 類似）

1. 卑弥呼
2. 推古天皇
3. 持統天皇
4. 北条政子

問4　1世紀半ば、日本の小国の一つであった奴国の王が、中国の王朝である後漢へ使者を送った時期の社会状況として、最も適切なものはどれですか。（2022年 愛媛公立入試 類似）

1. 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。
2. 狩猟や採集を生活の中心とし、ナウマンゾウなどの大型動物を追って移動を繰り返す生活を送っていた。
3. 仏教による国家の安定を図るため、聖武天皇の命によって全国各地に国分寺や国分尼寺が建立された。
4. 巨大な前方後円墳が築造されるようになり、その周囲には死者を供養するための埴輪が並べられた。

問5　3世紀の中国（魏）の歴史書には、当時の日本の様子が記述されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から授かった称号と品物の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2023年 岩手県公立入試 類似）

1. 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡
2. 漢委奴国王の称号と、金印
3. 倭王武の称号と、鉄剣
4. 征夷大将軍の称号と、刀や鎧

問6　日本列島で稲作が広まり、人々が竪穴住居に住んで定住生活を行っていた時代について説明した記述があります。その記述には、大陸から伝わった銅鐸や銅鏡などの青銅器が祭りの道具として用いられていたことや、当時の中国の歴史書において日本が「100余りの国」に分かれていたと記されていることが示されています。この時代の名称として正しいものを選びなさい。（2022年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 弥生時代
2. 縄文時代
3. 古墳時代
4. 奈良時代

問7　歴史上の出来事を整理する際、100年単位の「世紀」という区分が用いられます。例えば、西暦300年という年は、何世紀の終わりの年にあたりますか。（2023年 山形公立入試 類似）

1. 3世紀
2. 2世紀
3. 4世紀
4. 30世紀

問8　倭の奴国の王が、中国の後漢から金印を授かった紀元1世紀（西暦57年）ごろの世界情勢について、ヨーロッパや地中海周辺の動きを説明したものとして正しいものはどれですか。（2026年 愛知公立入試 類似）

1. 地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた
2. アレクサンドロス大王が東方遠征を行い、ヘレニズム文化が広がっていた
3. ギリシャ人が地中海沿岸の各地にポリス（都市国家）を建設し始めた
4. 西ローマ帝国が滅亡し、ゲルマン人の大移動が本格化していた

問9　弥生時代に製作された青銅器の一種で、兵庫県の五十六点や島根県の五十四点をはじめ、滋賀県や和歌山県といった近畿地方の府県で多くの出土が確認されている、豊作を祈るなどの祭礼に用いられた道具を何というか。（2024年 京都公立入試 類似）

1. 銅鐸
2. 銅矛
3. 石包丁
4. 勾玉

問10　弥生時代の祭祀で使われた青銅器のうち、釣鐘のような独特の形状をした道具について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2026年 滋賀公立入試 類似）

1. 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。
2. 土でつくられ、古墳の周囲に並べることで死者の霊を慰める役割を果たした。
3. 非常に鋭い刃を持ち、敵と戦うための武器や木材を加工する工具として使われた。
4. 仏教の伝来とともに寺院に設置され、人々に時刻を知らせるために打ち鳴らされた。

問11　弥生時代から古墳時代にかけての日本列島において、当時の人々が衣服を仕立てる際に主な原料として用いていたものの組み合わせとして、正しいものを選びなさい。（2026年 栃木公立入試 類似）

1. 麻と絹
2. 綿（木綿）と麻
3. 絹と羊毛
4. 綿（木綿）と絹

問12　中国の歴史書とそこに記された倭（日本）に関する記述の組み合わせについて、記述内容から判断して「魏志」倭人伝の説明として最も適切なものを選びなさい。（2024年 沖縄公立入試 類似）

1. 倭人が100余りの国に分かれ、朝鮮半島の楽浪郡に定期的に使者を送っていたとする記述
2. 倭の奴国の王が後漢の皇帝から金印を授かり、のちに倭国全体で大きな乱れが起きたとする記述
3. 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述
4. 倭王が中国の皇帝に対し、自らを「日出づる処の天子」と称する国書を送ったとする記述

問13　弥生時代に稲作が普及すると、土地や水の利用をめぐる集団間の争いが起こるようになりました。こうした外敵の攻撃から集落を守るために、周囲に深い堀や柵を巡らせた当時の集落の形態を何といいますか。（2021年 愛知公立入試 類似）

1. 環濠集落
2. 高地性集落
3. 竪穴住居
4. 高床倉庫

問14　弥生時代に大陸から伝わり、日本の社会を大きく変化させた稲作の広がりについて述べた文として、正しいものはどれか。（2023年 佐賀公立入試 類似）

1. 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。
2. 稲作は日本全土に均一に広まり、北海道や沖縄においてもこの時期に大規模な水田開発が行われた。
3. 稲作が伝わった直後に大王（おおきみ）と呼ばれる強力な支配者が現れ、全国の開墾を命令した。
4. 稲作の普及により、それまで使われていた打製石器がすべて消失し、すべてが青銅器や鉄器に置き換わった。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 富や権力を象徴し、村々のまとまりを強めるための儀式や祭りに用いられた	弥生時代の青銅器は、大陸では武器として使われていた形状を起源としていますが、日本国内では「祭りの道具」としての性格を強めていきました。例えば、銅剣はより薄く装飾的なものへ、銅鐸はより大型で音を響かせるものから観賞用のものへと変化しており、これらは農耕儀礼などの宗教的な場や、首長の権威を示す場において重要な役割を果たしていました。
問2	答え 1 高床倉庫	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための専用の建物が造られました。銅鐸などの表面に描かれた当時の絵画からも、梯子を使って登る床の高い建物の存在が確認されています。居住用の竪穴住居とは区別して使われていました。
問3	答え 1 卑弥呼	3世紀の日本について記した中国の歴史書『魏志倭人伝』によると、卑弥呼という女王が邪馬台国を統治していたとされています。彼女は魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印、多数の銅鏡などを授かり、自らの権威を国内に示すとともに、外交的な地位を確立しました。
問4	答え 1 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。	紀元前後の弥生時代には、大陸から稲作技術や金属器（青銅器・鉄器）が伝来し、生産力が向上しました。これに伴い、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐって集落同士の争いが発生し、各地に小国が形成されました。奴国の王が後漢の光武帝に使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは、こうした国内の勢力争いの中で中国の王朝を後ろ盾にしようとする意図があったと考えられています。
問5	答え 1 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡	中国の歴史書（魏志倭人伝）によると、3世紀に邪馬台国の卑弥呼が魏へ使いを送り、朝貢を行いました。その際、魏の皇帝から「親魏倭王」という称号とともに、その証となる金印や100枚の銅鏡などの返礼品を授けられたと記されています。なお、1世紀（紀元57年）に後漢の光武帝から金印を授かったのは奴国の王であり、混同しないよう注意が必要です。
問6	答え 1 弥生時代	紀元前数世紀から紀元後3世紀頃にかけての日本列島では、大陸から伝わった水稲耕作（稲作）が普及し、食料生産が安定したことで社会の仕組みが大きく変化しました。この時代、鉄器が武器や工具として使われる一方で、銅鐸などの青銅器は豊作を祈るための祭礼具として重宝されました。また、中国の歴史書『漢書』地理志には、当時の日本（倭）が100余りの小国に分かれ、一部の国が楽浪郡を通じて中国（漢）に使者を送っていたことが記されています。
問7	答え 1 3世紀	世紀の計算は西暦1年を起点として100年ごとに区切るため、各世紀の終わりの年は必ず100の倍数になります。1世紀は1年～100年、2世紀は101年～200年となるため、201年から始まった3世紀は、300年をもってその区切りを迎えることになります。301年からは4世紀に入ります。
問8	答え 1 地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた	日本が後漢と交渉を持っていた紀元1世紀ごろ、ヨーロッパでは地中海全域を支配するローマ帝国が全盛期を迎えていました。この時期は中国の漢王朝とローマ帝国の間で、シルクロードを通じた間接的な交流が行われていた時代でもあります。ギリシャのポリス建設は紀元前8世紀ごろ、アレクサンドロス大王の遠征は紀元前4世紀ごろの出来事です。
問9	答え 1 銅鐸	弥生時代には、大陸から青銅器の技術が伝わり、日本では主に祭りの道具として独自に発展した。銅鐸は近畿地方を中心に、四国や中国地方からも多く発見されており、稲作の豊作を願う儀式などで使われたと考えられている。選択肢にある銅矛も青銅器だが、これらは九州地方を中心に多く出土する傾向がある。
問10	答え 1 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。	釣鐘型の青銅器は「銅鐸（どうたく）」と呼ばれます。その表面には、鹿を狩る様子や稲作の風景、高床倉庫などが描かれていることがあり、当時の生活を知るための貴重な資料となっています。古墳時代に作られた埴輪や、実用的な武器としての鉄器とは役割が明確に異なります。
問11	答え 1 麻と絹	古代の日本における衣料原料は、植物から作られる麻や、蚕の繭から作られる絹が中心でした。現在、衣類に広く使われている綿（木綿）の栽培が大陸から伝わり、日本で一般的に普及するのは戦国時代から江戸時代にかけての後世のことであるため、弥生時代や古墳時代の選択肢としては不適切です。
問12	答え 3 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述	「魏志」倭人伝は、邪馬台国の政治体制や女王卑弥呼の死、そしてその後の大規模な埋葬儀礼について具体的に伝えています。他の選択肢について、100余りの国に分かれていたとするのは紀元前1世紀頃の「漢書」地理志、金印の授与や倭国の乱れ（倭国大乱）は1世紀から2世紀頃の様子を記した「後漢書」東夷伝、天子を自称したのは7世紀初頭の「隋書」倭国伝の記述です。
問13	答え 1 環濠集落	稲作の開始によって収穫物の貯蔵が可能になり、富をめぐる集団間の対立が発生しました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるように、当時の人々は居住区の周囲に堀（環濠）を掘ったり、木の杭による柵を設けたりすることで、外部からの侵入を防ぐ工夫をしていました。これが環濠集落です。
問14	答え 1 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。	大陸から伝わった本格的な稲作は、九州北部から始まり、次第に本州、四国、東北地方へと広がっていきました。しかし、冷涼な気候の北海道や亜熱帯の沖縄にはこの段階では定着せず、それぞれの地域で独自の文化が営まれました。大王の出現は後の古墳時代のことです。